

● みどりのベルト計画の策定について

1 計画策定の背景

近年、都市のヒートアイランド現象や自然環境の減少、ひいては地球温暖化や野生動植物の絶滅など、地球規模の環境破壊が心配されており、まちのうるおいや、環境保全に対処していく区民要望の広がりとともに、みどりの保全・創出など生活を取り巻く環境への関心が一段と高まってきています。そのような中で区は、まちの将来像として「区民が創る『みどりの都市』杉並」を掲げ、みどりの分野においては、武蔵野の面影を残すみどりや水辺、歴史を感じさせる街並みなどを杉並のみどりの特徴として生かしながら、美しい住みよいまちを目指すことにしています。

このような状況を踏まえ、みどりの豊かさを実感し、うるおいのある安心で活力に満ちた区民生活を実現するために、連続したみどりを創り出し、それを次の世代に引き継いでいく取り組みとしてみどりのベルト計画を策定し、今後の重要な施策としてその具体化と推進をはかっていく必要があります。

2 みどりのベルトに期待される5つの効果

点在するみどりを結び、連続した帯状のみどりにしていくことで、みどりが持つ機能を最大限に活かすことができます。みどりのベルトを形成することによって期待される効果として、①都市熱環境の改善、②生物多様性の確保、③防災機能の向上、④生活ネットワークの向上、⑤都市の景観形成、などが挙げられます。

3 みどりのベルトの概念

みどりのベルトとは、従来から考えられ、実施されてきた線としてのみどりよりも、周辺部を含めたより広い「帯状のみどり空間」です。概念として次の3つを考えます。

① 骨格となるみどりのベルト

区内のみどりと水の軸となる帯状のみどりのベルトで、都立公園などのみどりの大拠点を結ぶ善福寺川・神田川沿いの連続したみどりや妙正寺川・玉川上水・旧桃園川などのみどり、幹線道路などのみどりを考えます。

② 身近なみどりのベルト

身近なみどりのベルトとは、生活の周りのみどりを結んでつくる連続した小さなベルトです。そのために、生垣や庭先のみどりを近くの公園や学校などのみどりと結んでみどりのベルトを造っていきます。身近なみどりのベルトには、生活道路などに沿った「ルート型」と、地区内で面的な広がりをつくる「地区型」があると考えます。

③ その他

その他、東京都全域、首都圏といった広域的な視点から見た連続したみどりもあることを概念として整理します。

● みどりのベルト計画（案）

1 みどりのベルト計画の基本方針

みどりのベルト計画は以下の方針により、効果的にみどりと水のネットワーク化を図るもので、「帯状のみどり空間」の形成を目指します。

① 「様々なみどり」の保全・創出によりみどりのベルトの形成を図ります。

公園・道路・河川などの連続したみどりを活用するとともに、学校や公共施設の緑化、接道部の緑化、屋上緑化、樹林地や農地の保全などの、様々な緑化施策を総合的に推進します。また、生物多様性などみどりの質にも配慮しながら、様々なみどりの一体的な保全・創出によりみどりのベルト形成を図っていきます。

② 「小さい身近なみどりから大きな骨格のみどりへ」とつなげていきます。

生がきや庭先の小さなみどりを丹念に増やし育て、それを近くの公園や学校などのみどりと結びつけ、身近なみどりのベルトの形成を図っていくとともに、それを都立公園や河川などの骨格となるみどりのベルトにつないでいきます。

③ 区民・事業者及び区が協働してみどりのベルト形成を推進します。

みどりがもたらす恩恵とみどりがあわせもつ問題性を理解し合いながら、みどりを次の世代に引き継いでいく共有の財産として受け止め、区民・事業者及び区が協働してみどりのベルト形成に取り組んでいきます。

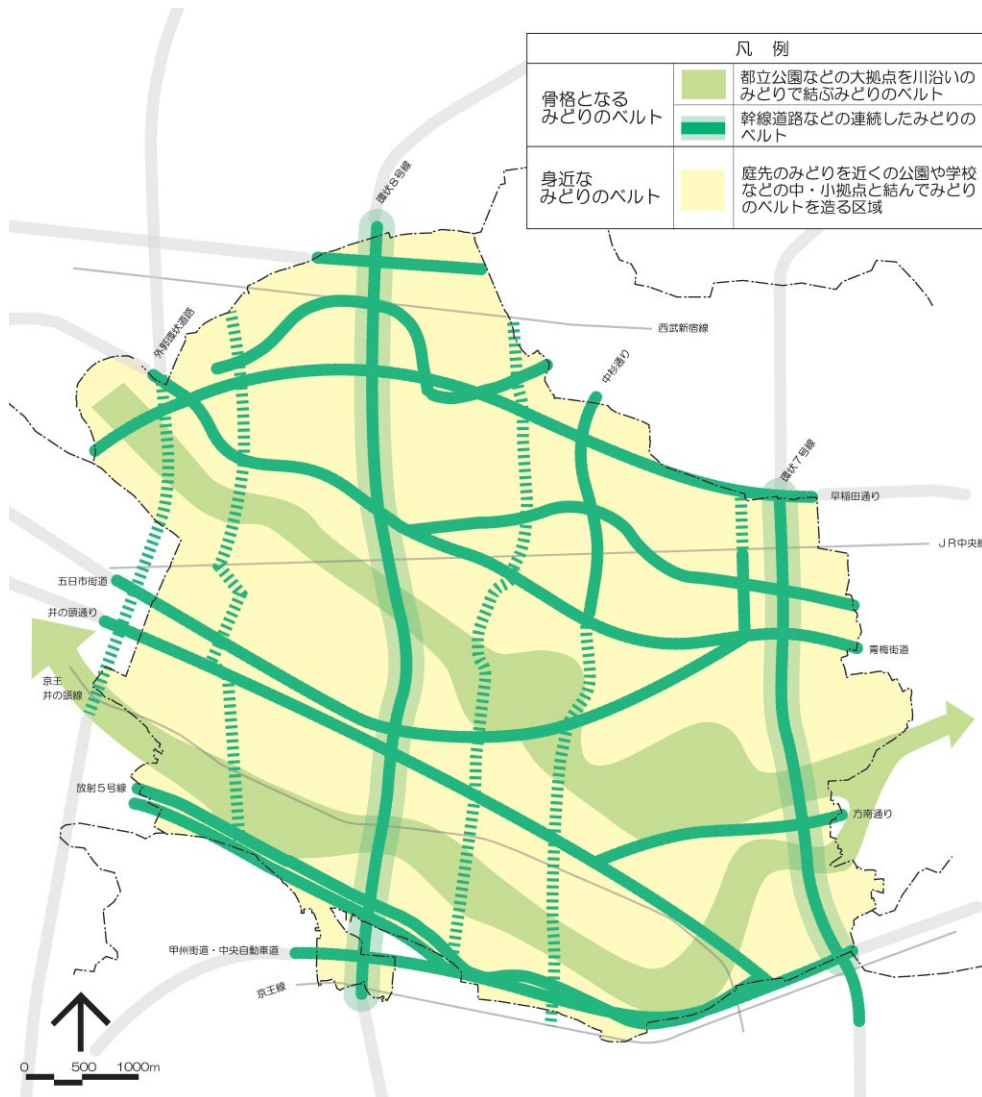


図-1 みどりのベルト計画図

みどりのベルト計画
(案)

1) みどりのベルト形成への取り組み

(1) 骨格となるみどりのベルト

(2) 身近なみどりのベルト

2) みどりのベルト計画推進の方策

3) みどりのベルト計画を支える制度の充実

1) みどりのベルト形成への取り組み

(1) 骨格となるみどりのベルト

区の骨格となるみどりのベルトは、都立公園などのみどりの大拠点を川沿いのみどりで相互に結んでさらに大きくし、また、都道の街路樹などを充実させて、骨太のベルトにしていきます。そのために、公園整備、枯損した街路樹の植え替えや再整備などを要請します。近くにお住まいの方は、住宅のみどりをみどりのベルトにつなげることを考えます。

(2) 身近なみどりのベルト

身近なみどりのベルトについては、生活の周りの小さなみどりを結んで連続したみどりを造るために、生垣や庭のみどりを近くの公園や学校などのみどりと結び付けます。そのため、区立公園などの整備や学校・公共施設の緑化、住宅地や事業所の緑化を進めます。

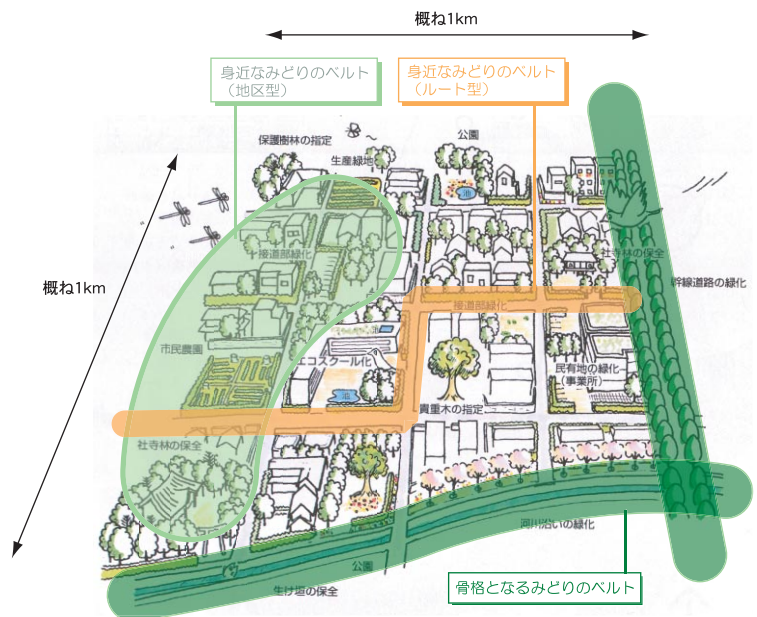


図-2 身近なみどりのベルトイメージ

2) みどりのベルト計画推進の方策

- 新たな緑化運動の展開
- まちづくり事業との連携
- 自然環境の質の向上
- みどりのベルト計画用地の確保
- 事業化へのプログラム

3) みどりのベルト計画を支える制度の充実

- みどりの条例等の見直し……みどりの条例を見直し、みどりのベルト計画を推進する新たな制度の創設や助成制度、みどり協定など、みどりのベルト計画を支える緑化施策の充実が必要です。
- みどりの基本計画の部分見直し…区全域を緑化重点地区にすることによって、緑化重点地区整備事業や緑化施設整備計画認定制度等の活用が可能となりみどりのベルト形成の効果的な手法となります。
- みどりのリサイクルとの連携……みどりのベルト形成によって剪定枝葉や落ち葉などの発生材が増えるため、これを利用し土壌生態系を豊かにするみどりのリサイクル活動と連携する必要があります。

3 みどりのベルト計画の実現に向けて

- 1 みどりのベルトづくりを新たな緑化運動として広げていく必要があります。
- 2 まちづくり事業と連携したみどりのベルト形成を進める必要があります。
- 3 都市の生態系を保全する視点から、樹林や農地などの多様なみどりを結ぶ必要があります。
- 4 みどりを結び連続したベルトにしていくため、みどりのベルト計画用地を確保する必要があります。
- 5 みどりの条例などを見直し、みどりのベルト計画を支える制度を整える必要があります。
- 6 みどりのベルト計画を実施していく区の事業計画を定める必要があります。

4 みどりのベルト計画パイロットプラン

みどりのベルト計画は、区内全域で実現していくことが目標です。そのため、当面区内のまちの特性を踏まえ、みどりのベルトを形成していく見本としてパイロット地域を定め、様々なベルト形成活動を実施します。そして、本計画の目指す姿が具体的に見られるようになれば、区内のモデルとなり、他の地域での活動の広がりにつながると考えます。

そこで、みどりのベルト計画の具体化と推進に向け、パイロットプランを作成しました。

- 桃井第四小学校通学区域（保全型）
- 杉並第八小学校通学区域（密集改善型）
- 高井戸東小学校通学区域（市街地整備型）



図-3 パイロット地域